

今を盛りと一斉に咲いた花たちは、
その短すぎる刻を終えて去つてゆく。

静かに咲き続けることも許されず、
風に追われ捕らわれて行く。

無機質な光に照らされながら、

足早に闇へと消えてゆく。

花の雨の中に立ち風のうなりを聞く。

去り際に美しさを魅せる、

花の姿を見送る。

触れもせずすり抜けるように去つてゆく。

私と傍らの猫の他には、

美しい花たちを見送る者はいない。